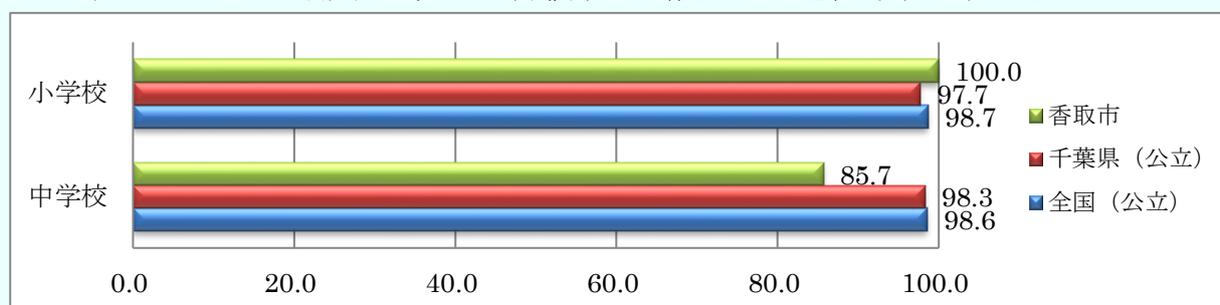


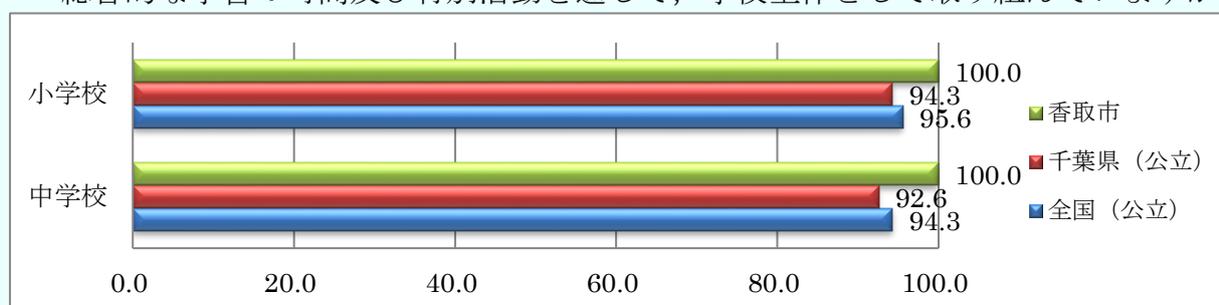
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合 (%)

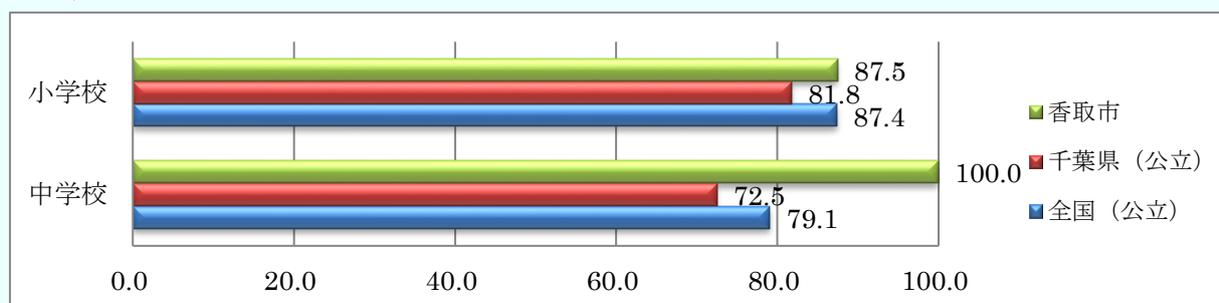
- 調査学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科，特別の教科道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



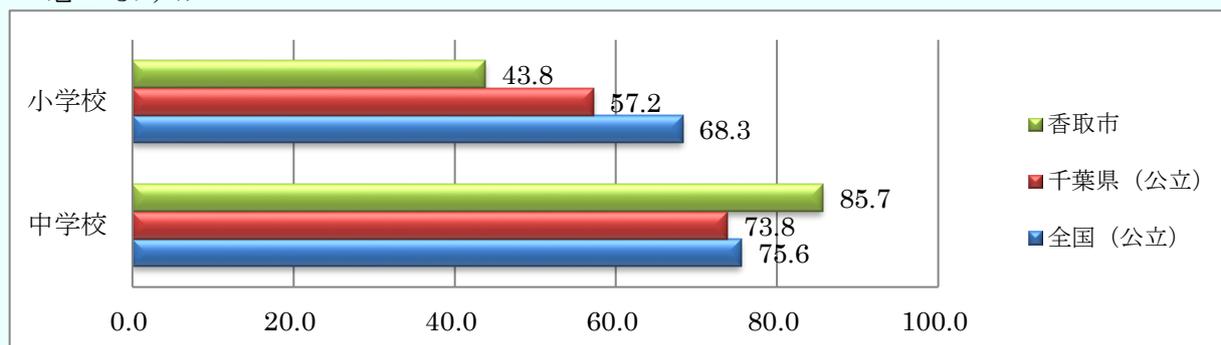
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



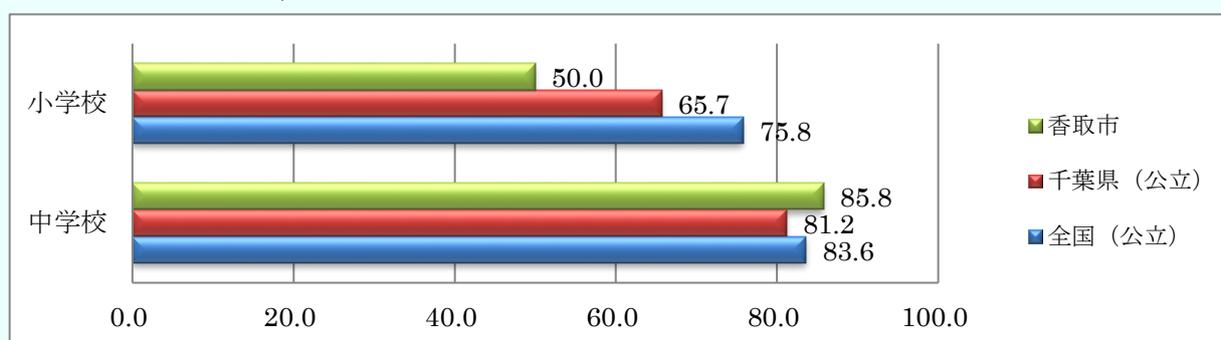
「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という質問には、小学校は積極的に取り組み、児童の自己肯定感や自尊心の向上に取り組んでいることが分かります。一方、中学校では課題が残ります。

言語活動については、小学校・中学校ともに学校全体で取り組んでいます。また、中学校では、言語活動の実施状況や課題について全教員で共通理解を図っています。生徒質問紙の生徒に対する質問「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に対して、「できていない」と答える生徒が全国に比べて高い割合であることから、中学校ではこの課題を重視して改善しようとしていることが伺えます。

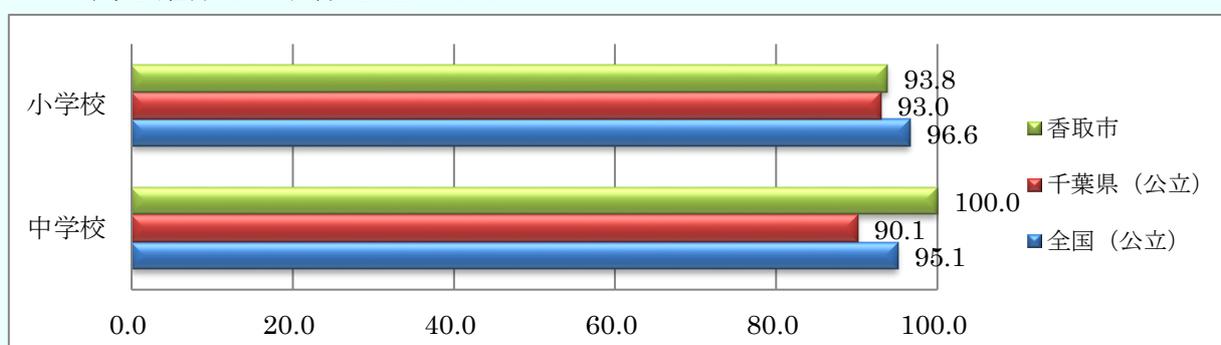
- 調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



- 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



- 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



小学校では、「児童が、自分の考えがうまく伝わるよう発言や発表を行っているか」、また、「自分の考えを深めるような話し合いができているか」という質問には半数程度の学校しか「できている」と捉えていないことが分かります。これに対して、中学校では8割以上で「できている」と捉えており、県や全国の平均を上回っています。これについては、小学校で「できていない」と感じていたために様々な手立てを講じて学習を重ねた結果、中学校で力を発揮することにつながったと推測することができます。

「授業の中で児童・生徒の発言や活動の時間を確保しているか」との質問は、小学校・中学校ともに高い割合を示しており、積極的に言語活動を行っていることが伺えます。